# 穴戸沢エシコ沢遡行記（S治）

**メンバー　S田石、E居、S治、M田（会員外）**

大滝 50m

10m 滝の右壁を登る

広い河原で宴会

山菜の季節の沢は、E居さんが銀座に復帰してくれたことを記念して、E居さんが参加しやすいように、東京と弘前の中間点の、二口山塊穴戸沢エシコ沢に決めた。

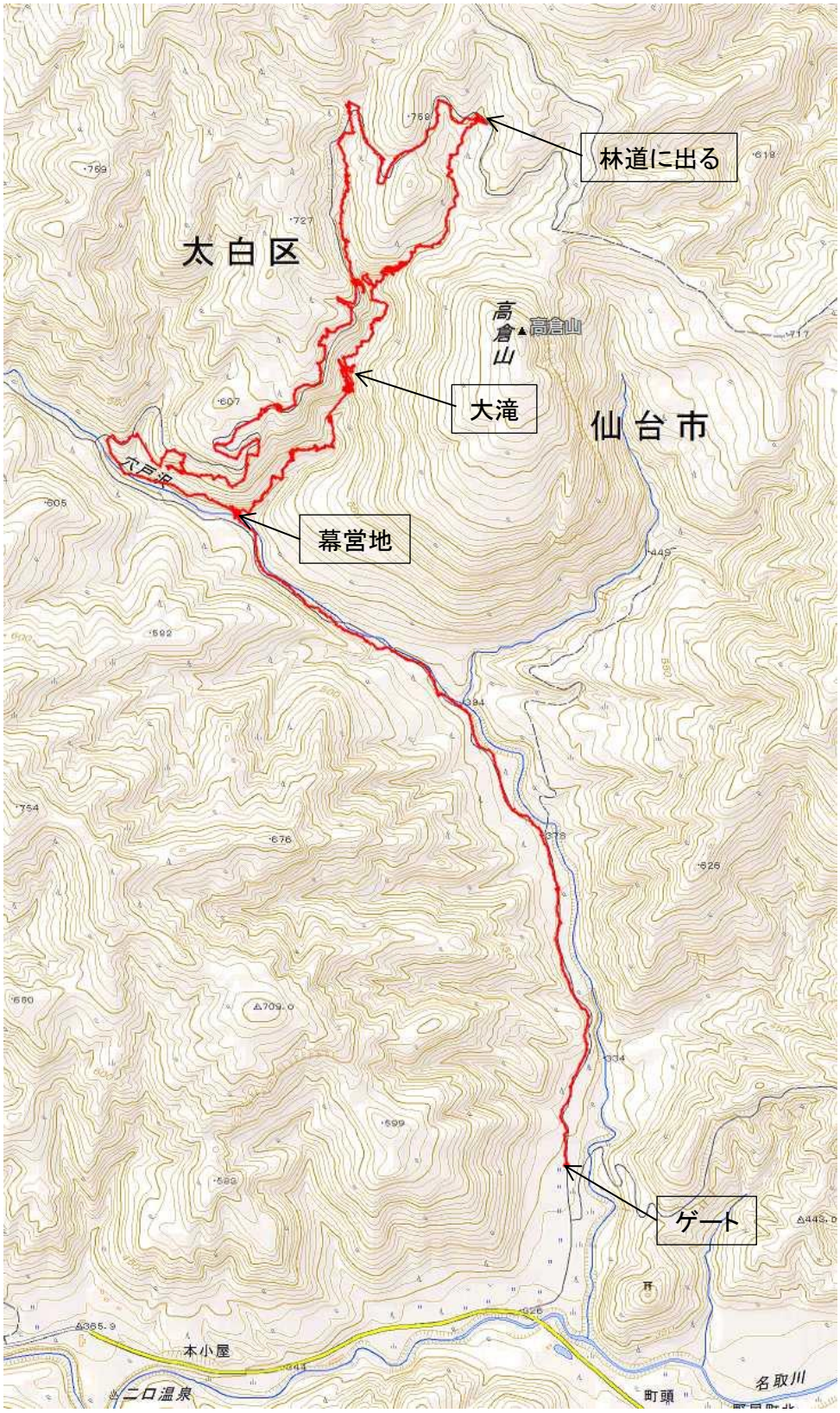
エシコ沢は、短い沢でわざわざ行くには物足りなさがあるが、例年この時期に行っている小淵沢方式で、下部に幕営して、1日目に沢を登って宴会するにはうってつけの沢だった。

**2018年6月9日（土）　曇りのち晴れ**

ゲート手前に車を置いて、林道を歩く。パラパラ雨が降るがたいしたことはない。エシコ沢出合に下りると、絶好のテント場があった。寝床は広くて平、宴会向けの河原にはすぐに下りられる。そして薪も豊富。
大タープを張って、荷物をデポして沢に入る。

沢は大行沢のとなりだけあって、岩床を歩くのが気持ちいい。沢の中ほどに大滝 50m が現れる。
これはロープを張って登る。続く 10m 滝の直登は困難そうで、高捲きもかなり大きく面倒そう。そこで右壁にロープを張ってトラバース気味に登った。
リードはもっぱら M 田さんに頼りっきりだった。
ほかにもお助けが役立つ滝が一つあったぐらいで、他の滝はロープ無しで快適に登れた。
最後の詰めもゆるいスラブをてくてくと登るだけで、すぐに林道に出た。

テント場に戻ったら、明るいうちから天ぷらを肴に宴会が始まった。山菜というより野草の天ぷらは、ワイルド感たっぷりでとても好評だった。たきびを囲んで語り合っていたらいつのまにか 23 時。薪の上で寝ることも考えたが、雨の予報もあるので、おとなしく大タープの下で寝た。




2018年6月10日（日） 雨

朝から雨。これは十分想定内。E居さんは、日曜日も1本登りたいような発言をしていたが、雨を見て気が変わったようだ。

大タープは、下で調理しても十分に広い。朝食後は雨音を聞きながら朝寝を楽しむ。ようやく本格的に起きたのは9時近くだった。

たきびを楽しむ山行は、沢登を引退した私でも、これだけはやめられない、至福だ。

コースタイム
6 月 9 日
ゲート（9:40）～幕営地（10:40）～大滝（12:30）～林道（14:10）～幕営地（16:00）

6 月 10 日
幕営地（9:30）～ゲート（10:30）